

随筆



テッポウユリ考・・・ 筒すなわち鉄砲

石川眼科医院
石川 秀夫

一昨年8月号で同仁病院の伊良部先生のテッポウユリについての随筆はおもしろく読ませていただいた。私は子供の頃テッポウユリは、ホウセンカの種子がはじけて飛び散るように種子が鉄砲玉のようにはじけて飛び出すということを聞いた。植物採集を趣味としていた6歳年上の従兄弟の話で、ユリの実の形態からみても充分納得できる説で、その随筆を読むまで、私は50年以上この説を信じて疑わなかったのである。

テッポウと頭についている動植物を百科事典で探すと、ユリ以外に三つ見つかる、テッポウウオ、テッポウウリ、そしてテッポウエビである。ウオは水鉄砲の様に口から水を射出して虫を撃ち落として食べる東南アジアの熱帯に住み西表島にもいるという。ウリは熟れた実をヘタから外すと種子が中身と共に鉄砲玉のように10mも射出するという地中海沿岸の野生ウリ。エビはピストルの撃鉄のように変形したはさみをほぼ直角に開いて急激に閉じるときに「パチッ」と衝撃波と音を発して獲物を気絶させたり、威嚇したりすると言う小さなエビ。沖縄の珊瑚礁の浅瀬にもいる。いずれも鉄砲を連想するその名に恥じない生態である。

沖縄ではユリといえばこのユリだけなのだが、本土では数種のユリが自生している、それ故、識別するための名前が必要になる。およそ身近な植物や動物の名前の由来には大方が納得できる理由があるものなのだ。ヤマユリは山に良く生えているから、スカシユリは花卉の根元が細くなって花の向こう側が【透けて見える】から透かしユリ、カノコユリは鹿の子模様が特徴、オニユリは特別ひときわ大きいから鬼に例え、ササユリはその全体の形や葉の形が【笹】

とそっくりなのである。

伊良部先生の随筆を読んで「そのご意見、ちょっと待った！」ともう一度【テッポウ】の由来を調べ直した、まずはインターネット、次に県立図書館に通っての植物図鑑調べである。

その昔、琉球百合といわれて流通し、現在でもリュウキュウユリという別名が記載されている、ではなぜ、一体何時の頃から琉球が消え鉄砲になったか？その謎を解明すべく色々探してみたが見つからないのである。そして私が固く信じて疑わなかった【種子が飛び出す】説は皆無なのである、その種子は頼りないほど薄く小さく風に乗ってひらひらと飛ばされていくらしい。ある説では花が真横に咲く様が鉄砲を構えているのに例えた、とか、花の形が鉄砲のように細長いからというのである。これでは根拠が薄いのである。花の形状ならむしろもっと身近な【喇叭（らっぱ）】を連想するはずである。伊良部先生の説の銃口の開いた銃は残念ながら日本では殆ど普及しなかったもので、庶民が鉄砲と言うのは、どう考えても、一般的な火縄銃の種子島でなければならぬのである。Blunderbussgunという語はあくまでもクラシカルな旧式銃という意味だと思うのである。

テッポウユリはその花の形はどう見ても鉄砲ではないので、これらいずれの説にも私は納得できず、【種が飛び出す】説を必死に探したが何処を見ても全く見つからないのである、この文章も書きかけ途中であきらめ放り出して1年以上過ぎてしまったのである。

ところがある日、満開のユリの群生を旧友と眺めながらこのユリと他のユリの何が違うかという話題になった、色々物知り顔で説明していて、自分自身の言葉にはっと気がついたのである。

テッポウユリを正確に記述すると

和名：テッポウユリ（鉄砲百合）

学名：Lilium longiflorum

（ユリ、長細い形）

別名：リュウキュウユリ（琉球百合）

琉球列島固有の種で多くの百合は花の根本近

くから花卉が分かれる離弁花冠だが鉄砲百合は筒状の合弁花冠になっていて先の方が分かれています。近縁種のタカサゴユリ（高砂百合）別名：細葉鉄砲ユリは台湾の原産、花は見分けがつかないが葉が細いのが特徴。



テッポウユリ



カサブランカ

(写真の説明) テッポウユリとその他のユリの開花の状態。その他のユリの代表選手にカサブランカを選んだ。鉄砲百合のやや遠慮がちに開いているのに比べカサブランカは目一杯派手に開いて強烈に自己主張している。

テッポウユリ以外の多くのユリは皿状に平らに開くものである、ところがテッポウユリは筒状に開き全開しません、筒状に咲くのが特徴です。【筒状に咲く】これが琉球ユリから鉄砲ユリに変化したキーワードです。

以下、私の独断と偏見による鉄砲ユリ由来説を紹介する。私が探した限りこの説を唱えている文章は何処にもない、もし見つけたら教えてください。

江戸時代、琉球ユリは貴重な花として流通しはじめました。しばらくの間はこの琉球ユリという呼称が一般的でした、ところがある時、庭師たちがきつとこういう話をしたのでしょう。庭師「ご隠居さん、今度珍しい良いユリが入ったのでその百合根を持ってきました。」ご隠居「それは良いね、で何というユリかね？」庭師「何でも、種子島の向こうの南の琉球という国の産で、琉球ユリっていうんです。」

ご隠居「ほー、どんな花が咲くのかね？」庭師「白い花です、すごく良い匂いがするんですよ！」

ご隠居「白だけかい？」庭師「ヤマユリと違って、花の元の方が筒みたいに細長いんです。」

ご隠居「筒のような花か。」庭師「そうです、筒ですな、筒咲きのユリですよ。」

ご隠居「筒のようなユリか、筒ユリか、琉球筒咲きユリ、詰めて言えば【琉球筒】という訳か、筒と言えばお兄さん鉄砲だ、琉球ユリじゃなく威勢良くテッポウユリにしな。」

庭師「テッポウかそりゃいいや、テッポウユリがいいや。テッポウの方が威勢がいいや。」

てなもんで、庭師たちは業界用語でこのユリのことを威勢良くテッポウと呼び始めたのです。テッポウの方が発音しやすいものだから、いつの間にか一般的にこのユリの呼称から【琉球】が消えて【鉄砲】が定着したのです。

テッポウユリの【鉄砲】はその姿形から生まれたのではなく言葉遊びが始まりなのです。

種子島というと火縄銃であり、筒というとやはり銃を表している。生産地や銃身の形や大き

さなどから堺筒：国友筒：薩摩筒：紀州筒：仙台筒、足軽筒、侍筒などと呼ばれ、使用目的などによって懐筒、短筒、馬上筒、大筒等もある。江戸時代は庶民でも筒といえば鉄砲のことであった。現代でも自衛隊の訓練に「立て～筒」「担え～筒」「捧げ～筒」という昔なじみの号令がある、言うまでもなく筒は鉄砲すなわち小銃のことである。

また江戸末期の駄洒落文化について触れると、【春夏冬】と店の表に張り紙、秋が無いから商い中というような駄洒落や謎解き絵文字等が江戸に広まっていたという。

この鉄砲ユリ由来説、受け売りではなく完全な私のオリジナルですが納得いただけますでしょうか？

そうそう、関西ではフグの刺身を「テッポウの刺身」省略して「てっさ」、鍋を「てっちり」といいます。これも駄洒落で、「滅多に当たらないが、当たったら死ぬ」という事だという。昔から、「フグは喰いたし命は惜しし。」と覚悟を決めてフグを食べていた人がいる反面、「フグなんぞ滅多に当たるものではない、当たる方がまれ。」と当時の火縄銃の命中精度の様なもので、私は全く気にもとめずに食べている。

お知らせ

こんな電話にご注意を！！

勤務医師の実家に、宅配便会社の名を語り、「貴家のご子息・ご令嬢宛に日本医師会から、直接、本人に渡すべき届け物があるので、勤務先・住所・電話番号を教えてください」などの“問い合わせ電話”が頻発しています。

本会が警察に相談したところ、「医学生時代の名簿を使った『振込み詐欺』に発展する可能性があるので、取り合わないことが大事」との回答でした。

会員の皆様は、くれぐれもご注意ください。

日本医師会

お知らせ

平成21年度 県関係人事並びに 琉球大学医学部（教授）の主な人事異動

平成21年4月1日付、県関係人事並びに琉球大学医学部（教授）の主な人事異動について、下記のとおりお知らせいたします。（*（ ）内は前役職です）

＜平成21年度 県関係人事抜粋＞

○部長級

- ・ 福祉保健部長…………… 奥村 啓子
（福祉保健部福祉企画統括監）
- ・ 南部医療センター・こども医療センター院長…………… 大久保 和明
（北部病院院長）

○統括監級

- ・ 北部病院院長…………… 大城 清
（南部医療センター・こども医療センター医療部長）
- ・ 福祉保健部保健衛生統括監（北部福祉保健所所長）…………… 宮里 達也
- ・ 参事兼宮古福祉保健所所長（福祉保健部保健衛生統括監）…………… 高江洲 均

○課長級

- ・ 国保・健康増進課長…………… 上原 真理子
（企画部宮古支庁宮古福祉保健所所長）
- ・ 北部福祉保健所所長…………… 島袋 全哲
（南部福祉保健所所長）
- ・ 八重山福祉保健所所長兼中央児童相談所八重山分室長…………… 伊禮 壬紀夫
（総務部職員厚生課副参事兼職員健康管理センター室長）

＜平成21年度 琉球大学医学部（教授）人事抜粋＞

○琉球大学医学部医学科生体制御医科学講座薬理学分野教授

- ・ 退官…………… 坂梨 又郎

○琉球大学医学部医学科病態解析医科学講座循環系総合内科学分野教授

- ・ 退官…………… 瀧下 修一

○琉球大学医学部医学科器官病態医科学講座内分泌代謝内科学分野教授

- ・ 退官…………… 高須 信行

○琉球大学医学部医学科形態機能医科学講座生理学第一分野教授

- ・ 退官…………… 小杉 忠誠

○琉球大学医学部医学科高次機能医科学講座脳神経外科学分野教授

- ・ 退官…………… 吉井 與志彦